

浮力コントロールチャート 補足説明書

初期設定ウエイトは、BCD、ドライスーツ、体の大きさ等、すべての浮力を最小にした状態にして、それぞれから発生する浮力を個別に分別して分かり易く**追加ウエイト**の設定を行います。

ただし、水深の大きな変化は考慮に入れないで同一水深で水圧に平衡しているとして考えて下さい。圧力・温度の変化によって気体の体積が変化する”**ボイル・シャルルの法則**”は過度に考えないことにします。

タンクの材質（スチール、メタリコン、アルミ等）による浮力の違いは、初期設定ウエイトで予め補正します。

水深（水圧）により物理的に大きさの変化が無い装備は浮力の変化が無いので除外して考えます。

浮力Aは、ダイビング中にBCD・ドライスーツ内に溜まった排出しにくい空気による浮力も加算されるので、その浮力を打ち消す為の**追加ウエイト1**はエントリー時の給気無しの浮力量より多めに設定した方が良くも知れません。

追加ウエイト2は**浮力B**に対応させますが、タンク内の空気重量が減って行く段階に於いて、**浮力B**を徐々に同量で減らさなければならないと考えて下さい。例えば、タンク内の空気がゼロに成った時には、**浮力B**もゼロにするということです。

浮力Bには、10Lタンク200気圧で最大約2.6Kg分の**追加ウエイト2**を対応させますが、通常、タンク内の圧力がゼロに成ることはありませんので各自が残圧の平均値で**追加ウエイト2**の重量を決めても良いと思います。

エントリー時には最大で2.6Kgのオーバーウエイトになりますが仕方がありません。呼吸による調整範囲には限界がありますので。

タンク内の圧搾空気の消費による重量減が無ければ、話は簡単ですが！

浮力Cは、体の大きさを最小にした時と力を抜いた自然体との浮力差です。

追加ウエイト3は中性浮力の位置調整を行う時に可変範囲と調整スピード（浮上と潜行の速度）に影響し、多すぎると水深の変化によるBCDの浮力調整が大変に成りますので注意して下さい。

出来れば、呼吸による浮力可変範囲の真ん中位にウエイトの重量を調整すれば良いと思うのですが？**ボイルの法則が癌**ですねwww!

自分の体の比重がどの位であるかを測定することはとても重要です。

***ボイルの法則**を考慮すると追加ウエイトは少ない方が良くもなります。